



第27号

【発行】

社会福祉法人
秋田県社会福祉事業団

〒010-1412
秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
TEL 018-889-8360 FAX 018-889-8361
HP <http://www.fukinoto.or.jp>
e-mail mail@fukinoto.or.jp



完成した「由利本荘地域生活支援センター」

理事長あいさつ



社会福祉法人秋田県社会福祉事業団

理事長 武田 哲也

春寒次第に緩み、一日毎に春の息吹が立ち込めてまいりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成二七年八月から由利本荘市内に、当事業団初の施設建設として進めておりました「由利本荘地域生活支援センター」及びこれに隣接する二棟のグループホームが、このたび竣工し、予定どおり四月に開設できる運びとなりました。これもひとえに関係者の皆様のご支援の賜物であり、改めて厚く御礼申し上げます。

平成二八年度からは、過去五力年にわたり県から受けていた包括的な財政支援がなくなる中で、これまで県から無償貸与されていた高清水園（秋田市）及び阿桜園（横手市）について譲与を受けるほか、当事業団が運営する他の県有施設については、新たに指定管理又は無償貸与の契約が締結されます。

このように当事業団の自立経営に向けた一層の努力が求められている状況を踏まえ、先般策定した「秋田県社会福祉事業団五力年経営計画」を着実に推進することにより、諸課題に真摯に取り組んでまいります。

また、障害者差別解消法や改正障害者雇用促進法が四月から施行され、障害の有無による分け隔ての無い、共生社会の一層の実現が今まさに求められており、当事業団といたしましても、着実にその取組を推進してまいりたいと考えております。

今後も、当事業団のモットーである「安心と豊かな生活（くらし）」をまごころで「を胸に刻み、関係各位のご理解とご協力を賜りながら、利用者の皆様の最大の利益の実現のために、質の高い福祉サービスの提供を実現してまいりたいと考えておりますので、皆様の一層のご指導、ご鞭撻を引き続き宜しくお願い申し上げます。

新施設情報「由利本荘地域生活支援センター」

平成二十八年四月十一日(月)にオープンする当施設は、次に掲げる福祉サービスをワンストップで提供します。

○生活介護事業(定員三〇名)

自立した社会生活ができるように、創作活動等のグループ活動、入浴、食事支援等のサービス、健康管理のお手伝いをします。

○児童発達支援事業(多機能型一〇名)

発達が気になる未就学児を対象に、個々の訓練と集団訓練等を行いながら、基本的な日常生活動作の獲得を目指します。

○放課後等デイサービス(多機能型一〇名)

発達が気になる就学児童・生徒を対象に、放課後や長期休業中に様々な活動を楽しく過ごしていただき、併せて、生活能力の向上を支援します。

○相談支援事業

地域で生活する障害のある方やご家族からの相談に応じ、必要な情報の提供、助言、障害福祉サービスの利用援助、関係機関との連絡調整を行うことで、安心して自立した生活が送れるよう、総合的・継続的に支援します。

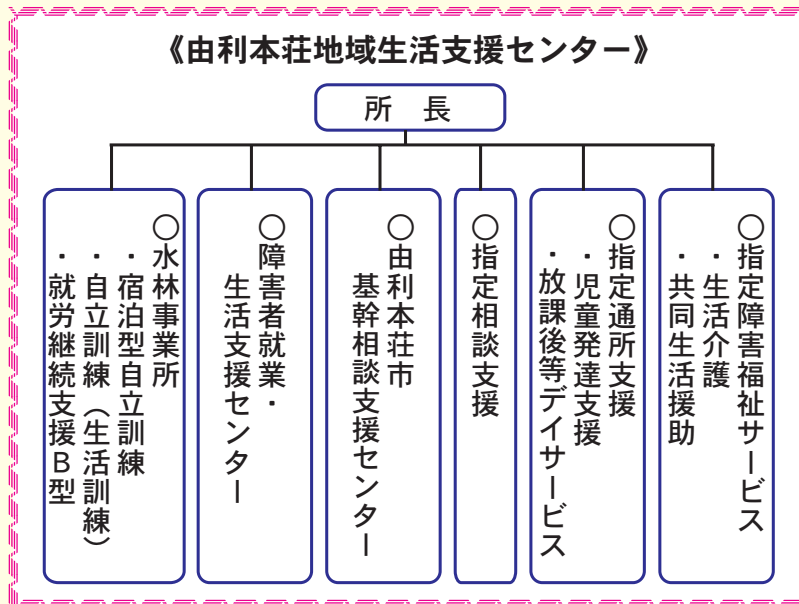
○由利本荘市障害者基幹相談支援センター

障害のある方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、福祉サービスの利用や各種制度の活用への支援、生活上の困りごとや不安な家族、人間関係についての悩みなどの解決を支援します。

○障害者就業・生活支援センター

E・Support
障害のある方の職業生活における自立を図

るため、雇用、保健、福祉、教育等の関係機関との連携のもと、就業面及び生活面について一体的な支援を行います。



(問い合わせ先)

〒〇一五―〇八五五
秋田県由利本荘市二番堰二五―一
TEL〇一八四―二五―七〇七七
FAX〇一八四―二五―七二〇二

グループホーム紹介

今回ご紹介するのは、由利本荘市で地域生活支援センターみずばやしが運営している「グループホーム御門」です。このグループホームは敷地面積四〇〇・二八㎡、延床面積二八三・四三㎡の木造ガルバリウム鋼板葺二階建ての建物で、一階に五名、二階に五名が生活する二ユニットとなっています。賃貸物件であるこの建物は、三光不動産株式会社と話し合いを重ね契約に至り、スプリンクラーや火災報知設備を備えています。



近隣には、コンビニエンスストア、スーパー、飲食店等があり、便利な環境が整っています。二月の下旬から引っ越しを進め、三月一日から利用者の皆さんは入居しております。新たな生活の一步を踏み出しています。



福島派遣

当事業団の公益的活動の一環として、福島県相双地域の特別養護老人ホームへ派遣していた職員から手記を寄せていただきましたので、ご紹介します。



事務局事業推進課 斎藤晴代

現在勤務している南相馬市の長寿荘は、地域でも一番古い歴史を持ち、地域に根ざした施設で、職員の家族や親戚で入所されている方も多く、利用者の生まれた日に誕生会を行い、その時代背景や歩んできた人生を皆さんで祝ったり、本当にアットホームな施設です。

自らも家を流され、家族を喪った職員が、放射能への不安の中、残された施設利用者を守るという使命を持ち、覚悟を決めて生きている姿を垣間見て、生きるということ、人間の尊厳と



いうことを改めて考え直す良い機会となりました。

毎日、町のどこかで除染がなされ、交通アクセスも復旧せず、住民の半数くらいしか戻ってきておらず、補償問題など課題も山積しており、まだまだ応援は必要かとは思いますが、住民の方々の、自立へ向けた覚悟も伝わってきます。本当にとても貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。

「野馬追いの武将も寛く安住地」

「派遣先」

- ① (社福) 養高会 特別養護老人ホーム「花ぶさ苑」：H二七・四・一〇～九・三〇まで
- ② (社福) 伸生福祉会 特別養護老人ホーム「長寿荘」：H二七・一〇・五～H二八・三・二九まで

「一般公開講演会」並びに

「事業団職員実践発表会」

平成二十八年二月二日(火)、秋田市御所野の秋田県中央地区老人福祉総合エリアを会場に「一般公開講演会」並びに「事業団職員実践発表会」を開催し、福祉関係者や福祉施設に入所している方の家族をはじめ一般の県民の方なども合わせて一四一名の方が参加しました。

「一般公開講演会」では、東洋大学社会学部社会福祉学科教授である高山直樹先生をお迎えして「生きる」を支援すること」と題して、対人援助サービスにおける権利擁護について

お話ししていただきました。障害のある方や高齢者をただ守るのではなく、意思決定・自己決定を支援することが権利擁護であることが再確認することができました。

午後は、当事業団の職員実践発表会というところで、四施設からの発表を行いました。それぞれの実践発表を通じて、各施設の現状、問題点、課題等について、理解を深めることができました。また、特別発表として、全国社会福祉事業団職員実践報告・実務研究論文で優秀賞をいただいた秋田県高清水園の「居住棟大規模改修工事に伴う利用者の一時的退避生活を通しての災害時緊急避難における施設機能の維持対応に係る一考察」と題して高清水園支援課の羽川課長補佐から発表がありました。

最後に高山先生からの講評をいただき、実践をまとめて発表することは、日々の業務を検証し、見直す貴重な機会であり、このような機会を継続していくことが必要だと実感しました。



たくさんの方に参加していただきました



高山先生による講演会

退職者からのメッセージ



秋田県中央地区老人福祉総合エリア
所長 判田 実

今から二十八年前、福祉の右も左もわからないままに事業団に入った私ですが、諸先輩方をはじめ多くの方々から教えを受け、支えられてなんとか走り続けることができました。本当に皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。
福祉の世界は措置から契約へ、そして指定管理者制度の始まり、さらには県施設の事業団への無償貸与や譲渡など、本当に激動の時代でしたが、これらの荒波をみんなで乗り越えてきたんだなあと、しみじみと感じます。
他にもたくさんさんの思い出がありますが、あちこちの施設でたくさんの人々と出会えたことが、なによりの幸せと感じております。
皆様と出会えたことを、これからの人生でも大切にしていきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひ申し上げますとともに、事業団の益々の発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈りしております。



秋田県南部老人福祉総合エリア
管理者 畠山 博

昭和五十二年一月四日が事業団の始まりでした。当時は、利用者・職員共に若く西目町民運動会や各種スポーツ大会に参加し一緒に楽しんだことが思い出されます。
私が約三十九年間勤務して感じていることは、人との出会いが人間を成長させ育ててくれたことです。良き先輩や仲間にも恵まれ過ごした事業団生活であったと思います。退職後は、その時々を楽しく有意義に過ごせるような活動をとおして、新たな出会いを大切にしていきたいと思えます。
おわりに、今まで事業団職員として苦楽を共にした皆様とご指導いただいた諸先輩の皆様へ感謝を申し上げます。ありがとうございます。



秋田県南部老人福祉総合エリア
支援部長 土崎 益子

今から四十年前、私は幼児教育を目指していましたが、ご縁あって、児童施設の阿桜学園に採用していただきました。対象になる年齢も幅広く、障害についての知識もない私にこの仕事ができるだろうかと不安でしたが、毎日の日課にそって児童達と生活を共にしつつ、その当時は、クラブ活動やスポーツ大会も盛んで毎日が新鮮で児童から学ぶことが多い日々でした。その後、児童施設から老人施設へ異動となり長い年月の間、色々なことを体験させていただきました。そして、より多くの職員の方々とお会いし、仕事をさせていただきましたこと、皆様に感謝申し上げます。これからの事業団の益々のご発展と皆様のご活躍をご祈念申し上げます。



秋田県高清水園 管理課
主任技能技師 川村とき子

退職にあたって
高清水園には開園の時からお世話になりました。利用者の方からおいしいと言われるようにと心掛けて来ました。一人ひとりの顔が、次々と頭に浮かんで来ます。思い出もたくさん頂きました。私にとっては、過ぎてしまえば、十九年間という月日はあっという間でしたが、利用者の方々から「川村さん」と声をかけて頂いて楽しく過ごす事が出来ました。おかげ様で無事退職を迎えることが出来ました。利用者の方々、職員の方々、本当にお世話になりました。ありがとうございます。



秋田県心身障害者コロニー
課長補佐 田口千香子

「退職を前に思うこと」
事業団職員の一員となり三十五年数カ月間いろいろな方々と知り合うことが出来、行く先々では同僚の方達にも恵まれ、随分と助けて頂きました。更生訓練センター、高清水園、心身障害者コロニーと経験する事ができ、大変な事もありましたが、とても楽しい日々を過ごさせて頂きました。また、印象に残るのは春の孫七山の望海の丘。満開の桜並木の間から見える青い海。そして真っ青な空を飛行機が飛んでいる光景は心が和み、リフレッシュできたものです。また、目の前を熊が駆け抜けて行ったことも非常に衝撃的で忘れられない思い出です。思い出は尽きないのですが、これからは、今までの経験を活かしながら一日一日を有意義に生活していきたいと思っております。皆様方がありがとうございます。



秋田県心身障害者コロニー
課長補佐 伊藤多香雄
銀杏支援課

『三十余年を振り返って』
昭和五十九年五月、十年余り勤めた大手自動車会社を退職し、秋田県社会福祉事業団に入職した。障害者更生訓練センターの勤務で、前職でコンピュータをかじっていた事もあり午前中は運転業務、午後はワープロ・パソコン科の担当からの出発であった。二度のエリア勤務、コロニー・高清水園勤務を経て、今回、心身障害者コロニーで定年となった。
思い返せば、エンジニアの端くれであった私は、福祉のことは全く分からず、通信教育で東京へスクーリングに行った事など懐かしく思い出される。事業団では色々な経験をさせて貰い、あつと言ふ間の三十年であった。
定年退職を迎え、第二の人生をどう過ごそうかと考えている、今日この頃である。



秋田県心身障害者コロニー
課長補佐 松山 定美
赤光支援課

『思い出』
秋田県社会福祉事業団に勤務して、四十数年。いろいろな方々との出逢いがありました。
その中でも「アンテナショップ」の出店の際には、地域の皆様にお世話になったり、私自身も奮闘しました。地域との交流の掛橋に夢中でした。
事業団職員の皆様方に支えられながら勤務できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



秋田県心身障害者コロニー
主事 草薨 優香
白光支援課

秋田県社会福祉事業団に採用になり丸三年。准職員として採用になった期間を加えると約五年間、障害のある方々と一緒に過ごさせていただきました。美術の短期大学を出た後、支援の世界に携わることになるとは、私自身全く意図しないものでした。体力的に難しい時もありましたが、事業団の中で得たものは大きく、また、かけがえのない出会いや思い出で溢れています。
この度、退職と言う形で事業団を離れる事となりましたが、今後違う形で、障害のある方と接していくこととなります。いずれ、別の形で事業団の利用者さんと接することができることを思うと、離れる寂しさも希望に変わるように思います。短い期間ではありましたが、かけがえのない時間を過ごさせていただいたこと、深く感謝します。



秋田県心身障害者コロニー
主幹 高橋 正二
開成支援課

共生社会を目指して
コロニーに採用され二十八年経つが勤務して間も多くの頃、担当することになった利用者から「村八分の意味を知っているか」と問われ、私は知らない旨を伝え、「地域の生活における十の共同行為のうち、葬式と火事の(二分)以外の一切の交流を絶つこと」だと教えていただいた。
その利用者は、接枝分裂病の発症により村の厄介者のレッテルを貼られ、地縁の輪の外へ追放され入院し、退院後はコロニーに入所することになったことを話してくれた。
今春施行される、「すべての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指す」障害者差別解消法を喜んでくれるだろうか。

表彰

平成二十七年全国社会福祉協議会会長表彰

【永年勤続功労者】

秋田県心身障害者コロニー

- 課長補佐 田口千香子
- 課長補佐 佐藤 怜子
- 課長補佐 上野 悦子
- 准職員 和田 光子

○平成二十七年全国社会福祉協議会会長表彰

【社会福祉功労】

秋田県心身障害者コロニー

- 主 査 佐藤 誠
- 主査 看護師 大場 祐子
- 主 査 三浦 志子
- 主 査 齊藤 純一

秋田県阿桜園

- 課長補佐 高橋 孝幸
- 主 査 畠山 音子

やまばと園

- 主 査 高橋 徹

秋田県身体障害者更生訓練センター

- 主 査 織山 茂樹

○平成二十七年社会福祉功労者秋田県知事表彰

秋田県南部老人福祉総合エリア

- 課長補佐 堀田 学

秋田県高清水園

- 地域支援課長 村山 紀枝
- 主任技能技師 伊藤 雄一

秋田県心身障害者コロニー

- 課長補佐 森井 勝
- 主 査 松川 裕人
- 主 査 宮野 誠司
- 主任技能技師 仙波 和美

やまばと園

- 課長補佐 高橋 浩文

受章おめでとうございます。

施設紹介 阿桜園

阿桜園は横手市にある、障害者・知的障害児の支援施設です。

阿桜園では、施設支援に加えて地域ニーズに応じて障害児通所支援事業を実施しております。平成二十四年四月から、重症心身障害児を対象としたほっとハウスの事業は児童発達支援・放課後等デイサービスに移行し、音楽・創作・健康活動などを通して発達を促す訓練を行っております。

また、地域生活支援事業として市町村から受託して実施していた、日中一時支援（養護学校児童生徒放課後生活支援事業）は、今年度より児童福祉法に基づく障害児通所支援事業（放課後等デイサービス）に移行しました。現在は横手養護学校に通う、児童・生徒さんの放課後や長期休業中において、遊びや運動などを通じて生活能力向上の為の支援を提供しております。



〒013-0064
秋田県横手市赤坂字仁坂105番地
電話：0182-32-6085
FAX：0182-32-7359



おすすめ店紹介

パン工房 Kneten クネーテン

人気のフランス老舗パン屋さんのPAULで修行をしたご主人と奥さまが、御所野の住宅街で営むパン屋さんをご紹介します。

二〇一二年九月にオープンしたお店で、白くてきれいな外観を目印にすると見つけやすいです。スーパーセンターアマノの近くです。

コンパクトな店内には、パンが五十種類以上並びます。こだわりのバケットは、外は固め、中はもちっとした食感。自家製つぶあんぱんを食べた職員は「素材の味がしっかりして美味しい！」と絶賛。イベリコ豚のベーコンエピからは、熟成された味わいがします。

人気商品は午前中で売切れることも多いので、早めの時間に行くことをおすすめします。



〒010-1919
秋田市御所野堤台2-6-225
電話：018-853-8953
定休日：月・火

(公財) 日本財団からの助成について

当法人が運営する秋田県心身障害者コロニーに、就労支援事業で生産したパンなどを運ぶ時に心強いホンダアクティバンが納車されました。この車には、「山のパン屋さん 孫コロ工房」と名付けました。皆さんよろしくお願いします。



編集後記

ふきのとうが芽吹く頃は、別れと出会いの時期ですね。今号では、退職を迎える皆様からのメッセージと一年間に渡り福島県相双地域等応援事業により派遣した職員の支援の様子と体験を掲載しました。今号をお読みいただきながら、時の移り変わりなどに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。機関紙「ふきのとう第二十七号」をお届けします。

